

神戸西部、明石東部の地域誌

「ふらっと」節目の300号

25年間、一度も休刊せず

神戸市西部と明石市東部を対象にした地域情報誌「月刊ふらっと」が、2月25日発行の最新号で300号を迎えた。2000年の創刊以来、25年間一度も休刊せず、グルメや健康、終活など、生活に密着した情報を発信。地域になくはない存在になっている。

（小尾絵生）

リクルートで営業などをし、早期退職した高嶋順滋さんが、出版社「神戸プラットフォーム」（垂水区）を立ち上げて創刊した。「体温が感じられる紙の媒

体をつくりたい」との思いからで、現在も准顧問として編集に携わる。

「これから生きた情報を」

毎月、40〜50円で発行部数は9万5千部。「介護」「リフォーム」「習い事」などの特集を組み、70〜80件の広告を掲載する。その多くは、営業兼編集部員が取材し、執筆、撮影もこなす。表紙には必ず地元の人が登場、中面にも人物写真を多く使うことで顔の見える誌面づくりを意識する。

「人は、時間と金の90%を自宅から6マイル（約10キロ）圏内で消費している」という米国の経済コンサルタントの言葉を大切にしている高嶋さん。「これから生きた情報を地域の人

に届けたい」と意気込む。対象エリアで戸別に配布のほか、掲載店舗、書店、スーパーなど約50カ所で無料配布している。2千円で年間購読も可能。神戸プラットフォーム ☎078・704・4566



節目の300号。医療機関の情報やグルメ特集など多彩な内容だ



天満圭子編集長（前列左端）、福田浩之社長（同中央）、高嶋順滋准顧問（同右端）ら神戸プラットフォームの社員＝垂水区陸ノ町